

カンパラ昨日今日

豊かな自然の中で暮らすウガンダの人々はとても穏やかでのんびりしている。挨拶に時間をかけるのは人と人との繋がりを大切にするからだと思う。標高が高い(およそ 1,200 メートル)ため赤道近くでありながら平均最高気温は 28 度ほどまで、年間雨量は 1,200~1,500 ミリと多く、いつも雨がウガンダの大地を潤している。確かに緑に覆われた山が多く自然に恵まれている。

首都カンパラの町にはいくつもの丘陵があり、幾重にも重なって見え、遠目にはその形が心地よかった。昔は樹々が生い茂っていたのであろうが、丘陵の上部には裕福な人たちの屋敷が建ち、下の方は粗末なタン屋根の家がひしめき合っている。街は車の数が急速に増え、渋滞と喧騒が慢性化している。日本車が目立ち、車体



に書かれた文字が一見日本語だが、よく見ると日本語モドキのデザインである。こうすると日本で使用された日本の中古車となり、価値が上がるとか。最近では中国製バイクのタクシー軍団が幅をきかせている。若い女性の横乗りをよく見かけるが、安全性が気になって冷や冷やする。車もバイクもハンドルを握ったら人が変わるのか、穏やかでのんびりしたウガンダ人ではなくなっている。(佐藤勝正)

“アールディーアイ通信 No. 80/2015”から

写真: 車に書かれた日本語もどきのデザイン。

これはかなり日本語に近いほう。ウガンダ・カンパラ 2015 年

ワラを燻しての虫除け

パキスタン南部、インダス川沿いの灌漑地での有畜農業は興味深い。小麦を主体とする作物栽培と水牛、牛、山羊などの反芻家畜飼育との融合である。胃が4つに分かれている反芻家畜は、人が食料にできない草、作物収穫残渣などをも第一胃内に棲息する微生物の助けを借りて発酵・分解し、最終的に乳肉を生産する。反芻家畜がこの地の人々の生存を支えていると言っても過言ではない。

こうした背景からか、農民は家畜を大事にする。ハイデラバード近郊の農家では、庭先でワラを燻していた。目的を尋ねると、家畜の虫よけのためだと言う。蚊やハエの退治で家畜のストレスを軽減することで、搾乳量の



増加を期待しているのであろうか。しかし、その効果は定かではない。このように、農民の家畜に対する労りの気持ちは強いが、決して高い乳肉生産が得られているわけではない。暑熱対策、貯蔵飼料確保、給与飼料の組み合わせなど、技術面の課題が多いからである。これら課題のいくつかを克服することで、家畜が本来もつ能力を十分に発揮させることは大いに可能である。(小林進介)

“アールディーアイ通信 No. 79/2015”から

写真: 庭先のここかしこで煙が上がっている。

パキスタン 2014 年

タンゴは踊るもの

アルゼンチンの人々の生活にはタンゴが欠かせない。2年間住んだ、北部の大きな都市ツクマンでも、街のいたる所で何かにつけてタンゴの音楽が耳に入ってきた。毎週日曜日夜9時になると、住んでいたアパート前の公園から大音量のタンゴの音楽が聞こえてきた。若者からシニアまでの幅広い年齢層の住民がタンゴを踊っているのだ。その踊りを囲んで、見て楽しむ住民も多い。タンゴを愛する人々が集い、自由に踊れる場として、地域のタンゴクラブが主催し、10年あまり続いているという。クラブ運営の足しにするカンパ用の帽子には、見ている人も踊っている人も少額だが寄付をしていた。

タンゴはただ聴くより、ただ見ているより、踊って楽しむことだ。タンゴ教室の生徒になれと勧められてレッスンに通うようになった。しかし抱き合っただけでは照れてしまってスムーズに踊りに入れない。教室の先生がアルゼンチンの習慣を教えてあげましようと言ったため、女性生徒の頬をつけてする挨拶がその後熱烈になった。アルゼンチン流挨拶は上達したが、この成果は日本では無用の長物である。タンゴは最後までうまく踊れなかった。(及川義明) “アールディーアイ通信 No. 78/2015”から



写真: 10周年記念イベントでは特別にバンドの生演奏があり大勢の人が集まった。アルゼンチン・ツクマン 2015年

週末は雄鶏の訓練

ドミニカ共和国の人々はやさしくて穏やかである。ただ勝負事にはかなり熱くなる一面を見た。首都サントドミンゴから車で1時間程のヤマサ市の集落に、現地調査のため2週間ホームステイをした。田舎の男たちの娯楽は、週末に仲間と庭先で闘鶏かドミノゲームかバイクをいじることのようなのだ。

庭の一角にはフェンスで囲まれた鶏舎があり、彼らは闘鶏で強い雄鶏を育成するために特別栄養価の高い餌を与え、空いた時間はずっと世話をする。夢中で育てている、という言い方ができる。タバコの葉を1週間ほど漬けこんだロンというラム酒を口に含み、雄鶏に吹きかけて擦ってマッサージをすると温まり、毛並の色艶も良く



なる。夜は冷え込むため温めておくそうだ。戦うときは専用の人口爪を雄鶏の爪部分にシリコンとテープで固定し、けしかけ、興奮させる。庭先での闘鶏は楽しみと訓練のためだが、それでも傷ついて、死んでしまうこともある。そうなるとう論晩ごはんになる。お金は賭けず、強く戦えるようにして闘鶏場に連れていく。勝てば数百ドルの儲けになることもあり、それを見れば雄鶏の世話に一層熱が入る。(宮内崇博) “アールディーアイ通信 No. 77/2015”から

写真: 庭先で闘鶏をする若者たち。ドミニカ共和国 2015年

サッカーよりもミスコン

農業開発プロジェクトでは、地域の人たちに実施の目的や生活がどう変わるのかを理解してもらうことが大切である。今後計画する研修やセミナーへの参加を促すために、人が集まるような祭りの企画をプロジェクトの職員に考えてもらった。サッカーの地域対抗戦後のバーベキュー案が出たが、やはりミスコンでまとまった。ミスコンが大好きで何かやるとなればミスコンで、ミスコンにすれば必ず盛り上がる。職員の準備にかかる情熱は素晴らしく、候補者が披露するダンスや質問の受け答えまで、事前に念入りに何度もリハーサルをし、指導した。プロジェクト対象地区を代表して 7 人の候補者が出場し、副知事や市長が審査した。1 位に選ばれた女の子はプロジェクト名から「ミスプロリカ」、今後いろいろ活動してもらう予定だ。会場には 300 人くらいが集まり、町からずいぶん離れているのに、アイスクリームやかき氷売り、サンドイッチ売りなど、どこからともなく現れて商売を



写真: 立ち姿も美しく、笑顔でアピール エクアドル 2013 年

ていた。ミスコンがメインの華やかな祭りではあったが、本来の目的であるプロジェクトのアピールもできた。職員の頑張りを評価したい。(末光健志)

“アールディーアイ通信 No. 76/2015”から

昼食は甘い果物水と

メキシコの定食屋の昼メニューに欠かせない飲み物に「アグアデサボール」がある。「風味付けされた水」という意味で、果物の絞り汁を水で薄めて砂糖を加え冷やして提供される。素材には、パッションフルーツ、スイカ、メロン、パイア、レモン、オレンジ、パイナップル、タマリンド、ハマイカ、オルチャタなどが使われる。スーパーマーケットで粉末にしたインスタント飲料品としても売られている。

ハマイカは、ローゼルというアオイ科の繊維作物で、開花後に赤く熟す萼と苞の部分を乾燥しておき、煮出して作る。酸っぱい微妙な味わいがする。オルチャタは、米を水に浸け吸水させて、牛乳、シナモン粉とミキサーで攪拌して作る。シナモンの代わりにアーモンド粉を加えることもある。シナモンあるいはアーモンドの香りのする



写真: 定食屋の昼ごはん。赤い液体はハマイカのアグアデサボール

米のとぎ汁の様な飲み物である。スペインでは食用のカヤツリグサの根を用いるらしい。メキシコではこのカヤツリグサの根の代替品として米を使用している。

日本の食堂でお茶や水が無料でサービスされるのと同じようにどこの定食屋でも出てくる。甘い水を飲みながら食事をとるのがメキシコ流である。(増淵 清)

“アールディーアイ通信 No. 75/2015”から